

←旧本館と桜
(平成23年4月2日写す)



進修学習館前の樹齢は定かではないがかなりの老木・枝垂れ桜が今年も開花し、古色蒼然たる旧本館に華やかな彩りを添えています。百年余りの歳月を経てきたこの学び舎は、数週間前の激しい揺れで傷ついているながら、何事もなかったように平然とその威厳を保ち続けています。思えばこの建物は大正期の関東大震災に見舞われました。当時の記録をみる限り、大した被害は無かったようですが、今回の大地震では……？

関東大震災時の土中

『進修』第23号（大正13年7月刊）の校報欄に次のような記事が残されていた。大正十二年九月の項に、

一日、始業式。正午頃大地震アリタリ、

三日、一日以来地震ノタメ不眠不休ノ状態ニテ多数ノモノ困憊ノ極ニアルヲ以テ慰勞 為臨時休業ス。

五日、職員ノ欠勤者多数ニテ成規ノ授業不能ニ付第四時限マテ授業ス、

六日、本日ノ授業第四時限マテ、七日、同上。

八日、本日ノ授業第三時限迄。

この後、学校生活の異常を示す記述がないことから、授業は正常に戻ったものと思われる。そして

廿六日、罹災学校ヨリ転入学希望者二十名ニ対シテ試験ヲ行フ。

とあり、関東大震災の大きな影響を伺うことができる。震災関係の記録はこれで途絶えている。

土浦地方にもかなりの災害をもたらした大地震であったが、生徒・教職員などに人的被害はなく、建ててから二十年近く経た校舎などについても、震災による被害記事が見当たらないことから、損傷などは殆ど無かったものと思われる。

ともあれ、関東大震災による混乱は、土浦中学校においては、一週間程で正常な学習環境を取り戻すことが出来、比較的軽微な影響で済んだ。

旧本館の被害は軽微か？

建てられてから一〇八年になる本校旧本館も今回の未曾有の大地震に見舞われ、少なからず損傷を受けた。多くの卒業生

などから、文化財である母校校舎を案ずる問い合わせが寄せられた。



脱落した窓枠



展示室の雨漏れ

(2011. 3. 12写す)

地震直後、一見した限りでは、大した被害は無さそうに思えた。窓ガラスが数枚破損した程度で、建物自体、些かも傾くことなく堂々とした姿を維持していた。しかし、数日後、校舎内外を隈なく点検

することで、壁のひび割れや柱のズレ、土台部分の煉瓦の破損など、至る所に強烈な揺れによる傷痕が見い出された。特に、旧本館のシンボルともいえる正面玄関の三連アーチを構成する2本の柱のうち1本が台座上で数センチ横にズレて傾いていることや、今まで見られなかった箇所に対応する雨漏れが生じており、屋根瓦の一部に破損が考えられるなど、建物そのものにかかなりのダメージが及んでいるように思われる。いずれにしても専門家による徹底した調査が急務である。旧本館は百余年の風雪に耐えてきたが、

床下や屋根裏など見えない部分にかなりの老朽化が進んでいることは、数年前の文化庁の調査でも明らかにしている。

このことを受けて本校同窓会は旧本館改修促進委員会の組織を立ち上げ、総力をあげて県・国に文化財校舎修復を働きかけようとしていた矢先、今回の東日本大震災である。明治の先人が魂をこめて創り出した旧本館は大正の関東大震災にも堪えた。そしてこの度の未曾有の大震災にも何とか耐え抜いてくれた。しかし、その後も続く余震で揺れ、軋む音が老校舎の押し殺した悲鳴にも聞こえて仕方がない。

一刻も速い対応が待たれるが、官民をあげて東北地方の地震・津波・原発事故の大災害を克服しなければならぬこの時期にあつては、残念ながら文化財校舎がこれ以上痛まぬよう只々祈り、見守ることしかできないのが現実である。

◆一高の前身は女学校？



右の写真は紛れもなく本校旧本館玄関です。それなのに柱には「安曇野高等学校」の表札が掲げられています。

これは、この4月から始まったNHK朝の連続ドラマ「おひさま」のロケ風景です。このところ、旧本館は「海軍兵学校」や「東京帝国大学」など様々な場面のロケに使用されてきましたが、今回は女学校としてのお役目です。これから6月ごろまで、しばしば本校旧本館がお茶の間のテレビに映ります。お洒落な女学校校舎として、視聴者の人気を集めそうです。